

【 5領域の内容 】

①健康・生活

- ・ 定期的な心身の把握（毎回体温測定・気分把握）
- ・ 生活リズムの安定（定期的かつ定時に通所）
- ・ 構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示・支援
（視覚的に「何がどこにあるか」「どこで何をするか」を絵などを使い具体的に表示）
- ・ SSTなどによる身体的、精神的、社会的訓練
- ・ 衣服の着脱（外遊びや水遊び等の活動の前に重点的に取り組む）
- ・ 身だしなみや整え方

②運動・感覚

- ・ 姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善
- ・ 視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚活動
- ・ つかむ・支える・滑る等の要素を取り入れた遊具遊びの提供
- ・ ストレッチ、ラジオ体操、バランスボール軽い運動や姿勢維持
- ・ 指先トレーニング
- ・ ビジョントレーニング
- ・ 音楽に合わせて体を動かす遊びや運動

③認知・行動

- ・ 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子の把握
- ・ 空間・時間等の概念の把握
- ・ 天気、気温、日付の把握と確認による感覚・数の認知形成
- ・ 1日の時間帯別活動を示すタイムテーブルの確認による時間の認知形成
- ・ 粘土、スライムによる物質の変化と感覚の認知形成
- ・ ブロック遊びによる空間把握の認知形成
- ・ 小集団でのゲームでの適切な行動形成、認知の偏りの配慮
- ・ ABAなどにより感覚、認知の偏りに対するリフレーミング
- ・ 季節の変化への興味などの感性形成のための外出・行動

④言語・コミュニケーション

- ・ 文字・記号、絵カード、機器等の適切なコミュニケーション手段を選択・活用
- ・ はじまりの会で今日の気分・気持ちをプレゼンテーションして言語表出・受容
- ・ 終わりの会で活動振り返りと気持ちをプレゼンテーションして言語表出・受容
- ・ 個別または小集団での障害の特性に応じた読み書き
- ・ 自己紹介、他己紹介
- ・ ルールなどを絵や絵カードを使って視覚化
- ・ PECSなどコミュニケーションのスキル向上訓練
- ・ 手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション

⑤人間関係・社会性

- ・アタッチメント形成（個別面談で自尊心を高める・認める）
- ・活動前に全体を指差しする等を行い、全体を見渡す機会の設定
- ・見本になるこどもの近くに誘う等の関わり・促し
- ・見立て遊び、つもり遊び、ごっこ遊びの組み合わせ
- ・一人遊び、並行遊び、連合的な遊びの組み合わせ
- ・役割分担のある遊びなどの協同遊び
- ・ルールの理解が必要な遊びや集団活動
- ・地域施設などへの社会見学
- ・イベントなどを通じた地域との交流

【 本人支援の4つの基本活動 】

こどもの意見を聞きながら自己選択や自己決定を促す

こども同士の関わりの中でこどもが主体性を発揮しながら参加できるように支援

本人支援において、複数組み合わせで行うことが求められる4つの基本活動とは

①日常生活の充実と自立支援のための活動

こどもの発達に応じて必要となる日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動を行う。こどもが意欲的に関わられるような遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育めるようにする。

②多様な遊びや体験活動

遊び自体の中にこどもの発達を促す重要な要素が含まれていることから、挑戦や失敗を含め、屋内外を問わず、自由な遊びを行う。また、体験したことや、興味を持ったことに取り組めることは、新たにやってみたいと感じる機会につながることから、多様な体験の機会を提供していく。

③地域交流の活動

障害があるがゆえにこどもの社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、地域の中にこどもの居場所をつくりながらこどもの社会経験の幅を広げていく。こどもにとって、地域そのものが安全・安心な居場所となることにもつながる。

④こどもが主体的に参画できる活動

こどもとともに活動を企画したり過ごし方のルールをつくったりするなど、こどもが主体的に参画できる機会を設け、こどもが意見を表明しやすい環境づくりを行いながら、こどもとともに活動を組み立てていく取組を行っていく。